京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

2001年6月

事務局：高木神経科デイケアおいけ内
〒604-0845 京都市中京区烏丸御池上ル都ビル２階
TEL075(222)0452　FAX075(222)1052

１．７月例会のご案内

日時　　2001年７月７日(土)14:00～17:00
会場　　京都市職員厚生会職員会館かもがわ第５会議室
住所　　京都市中京区土手町夷川上ル末松町284　　TEL075(256)1307
テーマ　「新任者研修パート１～PSWとして働いていること」

話題提供　藤田尚　氏（第二北山病院）
　　宮崎彰造　氏（アスロード）

７月の例会は、今年度事業計画に掲げた新任者研修に取り組みます。

ソーシャルワーカー・相談員・指導員等呼び名は色々ながら、PSW・精神保健福祉士として現場で仕事をしていて、戸惑ったり困難に思えたりの日々を誰もが送っています。新任から数年間は特にそういったことの連続。

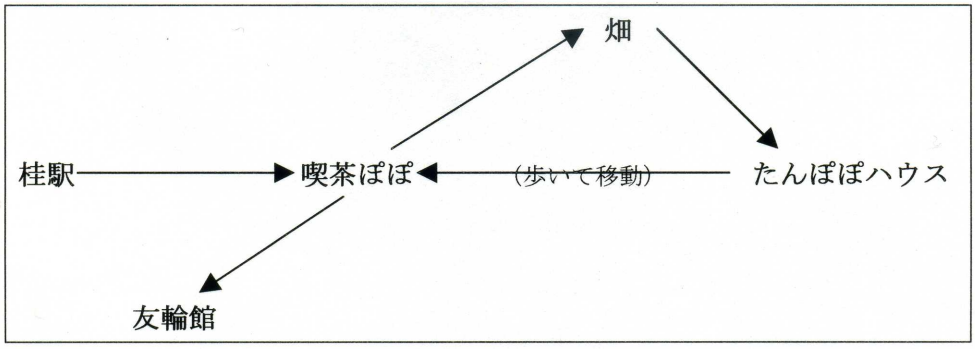
今回は、まずそういった新任の方々の現在を持ち寄り、整理してみたり助言を受けたりする機会作りをし、次につながる課題も探りたいと思います。

新任から経験数年位の方々は気楽な気持ちでご参加ください。もちろん中堅、“ベテラン”の参加もお願いします。

２．６月例会の報告

６月２日(土)の例会は、「西京区の取り組み～地域システムの模索～」というテーマで、車で徒歩で西京洛西をめぐり、人々が暮らすまちのなかに精神障害者の場が根づいてきているのを感じながら、関係団体、機関、ボランティア、住民などが、どのように地域でのネットワークを育ててきたのかを見学する、というものでした。

＜西京洛西見学ルート＞



（洛西について）

洛西支所管内で人口約６万人。洛西ニュータウンは25年前にできて、住人の高齢化は同時期に進んでいるが、当時より街全体がバリアフリーであり暮らしやすい。

（ふれあい喫茶ぽぽ）

境谷自治会館の一角にあり、元々喫茶店があったスペース。たんぽぽハウスが運営しており、スタッフ、ボランティア、メンバーの１日７名位でしている。１日平均約50名のお客さんがきて、“地域の茶の間”といったスペースであり、情報交換（生活、福祉、ボランティア情報など）の場にもなっている。元々喫茶店のスペースが空いてしまい、建物の管理清掃も委託されていて、たんぽぽハウスの作業として行なっている。境谷学区の地域とのかかわりは、女性会、民生委員会など、集まりがあるごとに保健所・作業所から出向いていってはは、病気や作業所の説明をさせてもらってきた。社協、民生委員会、女性会がボランティアとして出てくれることになり、それで理解が深まっていった。また、地域のボランティアとのネットワークもあり、実数81名のボランティアに協力してもらっている。

（畑）

郊外に車で5分ほど、街並みが見下ろせる丘の田園地帯にあり、とても気持ちがいい。保健所洛西支所が、農家から 100 坪を無料で借りている。主にたんぽぽハウスがしているが、保健所などみんなで一緒にやっている。畑のためのボランティアもいる。週に何回か徒歩か車で来て、ハーブや野菜、花などを育てていて、喫茶ぽぽで使っている。

（たんぽぽハウス）＜平野元子所長＞＜田所美智子氏＞

洛西センターの真ん中、バスターミナル真横の洛西センタービル５階にある。文字通り街の“ど真ん中”にある。平成１１年８月オープン、平成12年度より助成を受けている。

ここでも公社より清掃を委託されている。メンバーは清掃作業のほか、畑仕事、自主製品（ハーブティー、ハーブキャンドル、サシェ）づくりなどを、ゆっくり、のんびりをモットーに、それぞれのペースに合わせた作業を行なっている。また、手づくりの大型紙芝居をもって、地域の老人会などで上演している。

（友輪館）＜久保修氏＞

西京区役所の斜め向かいのビルにある。２階がサロン、３階が作業所。

メンバーはピーク時で35名、現在21名。毎年約20名が通リハも含めて就労していった。独居老人への配食を毎日40～50件、車2台で。やよい工房が週2回水金に手伝っている。桂川園の福祉施設の清掃も請け負っている。社協からの仕事が多い。

2階のサロンは、老人会などがカラオケをしに来たりもする。自由なスペースである。

「心の病をもつ人が地域で安心して暮らせるようにする会」＜田所美智子氏＞

平成9年からであり、4年ほどしてきている。会の代表は家族会の代表がしている。

規約は、当事者が望む活動を支援するというものである。毎月1回の運営委員会には当事者と家族が参加、保健所長、社協も参加している。企画（地域懇話会、コンサート、バザーなど）もしている。

啓発だけでなく、そこから先の具体的な活動を重視している。うごきは活発であり、ここ毎年共同作業所をつくっている。保健所、家族会、社協、その他の団体が、みんな協力関係で進んで、それぞれがみんな、自分達がつくったと自負している。

今後は民生委員会、女性会など、もう少し地域を巻きこんで、より地域の人々の参加を目指し、西京区に地域生活支援センターをつくりたいと思っている。

＜6月例会の感想＞

古賀直充（共同作業所やよい工房）

今回の学習会で、こころの病をもつ人が地域で安心して暮らせるようにする会、友輪館、たんぽぽハウスの活動報告をきき、西京区での友輪館発足後の3年程の活動は目を留めるものを感じました。社会資源として作業所等を作り上げるには、かなりのエネルギーが必要であります。私の職場も作業所で、発足時から勤務していますが、それまでの苦労話を聞くと、地域に作るというのはやはり並大抵ではいかない事を実感しています。

特にこの会の地域交流事業の活発さには大変興味があります。集える場を出発点に更なる生活圏の拡大、作業所の枠を超えた地域との繋がりに結びつくものだと思います。地域交流にはこういうスタイルもあるのかと、日頃閉鎖的な思考に陥りがちな私に良い刺激となりました。

三品桂子（花園大学社会福祉学部）

6月2日、初夏の陽射しの中、学生3名と共に例会に参加させていただきました。まず、学生の参加を快く受け入れてくださった中瀬会長さん他会員の皆様に紙上を借りて深くお礼申し上げます。

今回の例会の内容は、「共同作業所たんぽぽハウス」「ふれあい喫茶ぽぽ」「たんぽぽハウスの畑」「友輪館」「ふれあいサロンゆうりん」を見学しながら、西京区の「こころの病をもつ人が地域で安心して暮らせるようにする会」のコンセプトを学ぶというものでした。企画そのものが新緑の中を歩きながら西京区の理念をそのまま体験できるもので、その key words は「ゆっくり、のんびり、たのしく、いきいき」であると思いました。

西京区の取り組みを見学しながら、以下の3点を実感しました。①西京区の今日がある

のは、歴代の精神保健福祉相談員の活動を礎にしていること。②ストレングス視点の一つ「地域は資源の宝庫である」ことの再認識。③働いている職員自身がエンパワメントしていること（職員の表情がとても良かった！）。

素晴らしい活動を視察でき、とても良かったのですが、例会のあり方として、最後に「ソーシャルワーク実践と理論」を結び付けるような討議ができたら、実践を通した理論の学習ができ、より深い学びを得られるのではないかと思いました。実践と理論の統合をはかることで、若木はさらに成長し、年輪を刻んだ大木は新芽を出し果実を実らせていくのではないでしょうか。

精神保健福祉士協会が発足したことで（例会終了後に役員会があるという理由からかもしれませんが）、経験豊かな会員がたくさん参加されていたことがとても印象的でした。これからは、経験豊かな会員の方にも参加していただき、活発な討議ができる会に発展することを希望し、次回を楽しみにしつつ、稿を終えることとします。

＜編集後記＞

今回の例会は、単体の点として作業所施設を見学するのではなく、地域を肌で感じながら、地域ネットワークシステムのコンセプトをあらゆる感覚から捉えながら、街全体がどう障害者を受けとめているのかを掴み、またシステム全体の有機的なあり方を考えるものでした。国内外、世界に冠たる地域システムも、最初は小さな種火から始まったはずです。大切なのはその火が消えない事です。今回は、とても心に響く例会であったと思います。

今回通信より、例会当日参加できない会員にも、本協会活動の大きな柱のひとつである例会の内容を役立てて頂きたいという考え方から、会報の紙面において報告していく事となりました。会報委員としましても、力量不足を乗り越えて、例会での“熱さ”を少しでも伝えていけたらと考えております。有意義な会報たりえるように努力していきます。

（担当会報委員　藤田尚）

３．事務局からのお知らせ

１）他団体へのご挨拶

去る６月 10 日、協会設立の挨拶のため会長、副会長の３名で京都社会福祉士会を訪問しました。ちょうどその日は理事会開催日で、会長をはじめ数人の理事の方が快く迎えて下さり、今後の活動において適宜協力していくことを確認しました。７月には京都府・京都市の社会福祉協議会を訪問の予定です。

２）所属機関などの変更がある方は、速やかに事務局までお知らせ下さい。

３）振込用紙をお送りした方は、速やかに会費の納入をお願い致します。

４）当協会事務局にてメールアドレスを開きました。どうぞご利用下さい。

e-mail : kyo-psw@mbox. kyoto-inet. or. jp